

悩みのレベルを決めるOATHの法則

OATHの法則とは？

- お客様の問題意識レベルを4段階に分ける法則
 - **O (Oblivious)** : 無知 (問題があることを認識していない)
 - **A (Apathetic)** : 無関心 (問題があることを認識してはいるが、解決したいと思っていない)
 - **T (Thinking)** : 考えている (問題があることを認識していて、できれば解決したいと思っている)
 - **H (Hurting)** : 困っている (問題があることを認識していて、真剣に解決したいと思っている)

写真を活用する場合

- **O (Oblivious)** : 写真の大切さがわかっていない
- **A (Apathetic)** : 写真が大切だとわかっているが、気にしていない。
- **T (Thinking)** : できれば綺麗な写真を撮りたいと思っている。
- **H (Hurting)** : 写真の良し悪し真剣に悩んでいる。

対策

- **O (Oblivious)** : 写真の大切さがわかっていない
 - ▶ 「写真って大事ですよ」
- **A (Apathetic)** : 写真は大切だとわかっているが、気にしていない。
 - ▶ 「視点を変えていかないと〇〇ですよ」「このままだと〇〇ですよ」
- **T (Thinking)** : できれば綺麗な写真を撮りたいと思っている。
 - ▶ 「こうゆう方法で解決できますよ」 (しっかりとした説得・説明)
- **H (Hurting)** : 写真の良し悪し真剣に悩んでいる。
 - ▶ 「こんな方法で解決できますよ」 (簡単な説得・説明)

適切な相手に適切な教育・提案を

美容室の場合

- **O (Oblivious)** : 髪が傷んでいると気づいていない
- **A (Apathetic)** : 髪が傷んでいると気づいているが、気にしていない。
- **T (Thinking)** : できれば綺麗な髪になりたいと思っている。
- **H (Hurting)** : 髪の痛みに真剣に悩んでいる。